

1. 文化財保護課 Tel : 049-224-6097 E-mail : bunkazai@city.kawagoe.saitama.jp

(1) 文化財の保護と活用

①文化財補助事業

【令和2年度事業予定】

・川越市には、国・県・市指定文化財等が266件あり、これらの保存を目的に補助金を交付する。

【令和元年度事業実績】

・無形民俗文化財の後継者養成等	16件	・建造物等の防災設備保守等	10件
・有形文化財・民俗文化財の保存修理	7件	・史跡・天然記念物の保存等	9件
・団体の育成	2件		

②新指定文化財

【令和2年度事業予定】

・指定文化財の保存と活用に努める。また、各種文化財の調査を進める。

【令和元年度事業実績】

・旧山崎家別邸が国指定重要文化財に指定された。

③文化財防火訓練

【令和2年度事業予定】

・毎年1月26日は、「文化財防火デー」となっている。これは昭和24年の法隆寺金堂壁画の焼失を機に定められた日で、文化財を火災や震災等の災害から守ることを目的としている。川越市でも、この日に合わせて文化財防火訓練を行い、文化財保護の意識の高揚を図っており、喜多院・東照宮・日枝神社を会場として川越地区消防組合等と共催で、防火訓練を実施している。

【令和元年度事業実績】

第62回 川越市文化財防火訓練

・実施日 令和2年1月23日	・出動消防車両	10台
・参加者数…119人	・見学者	約200人

④埋蔵文化財

【令和2年度事業予定】

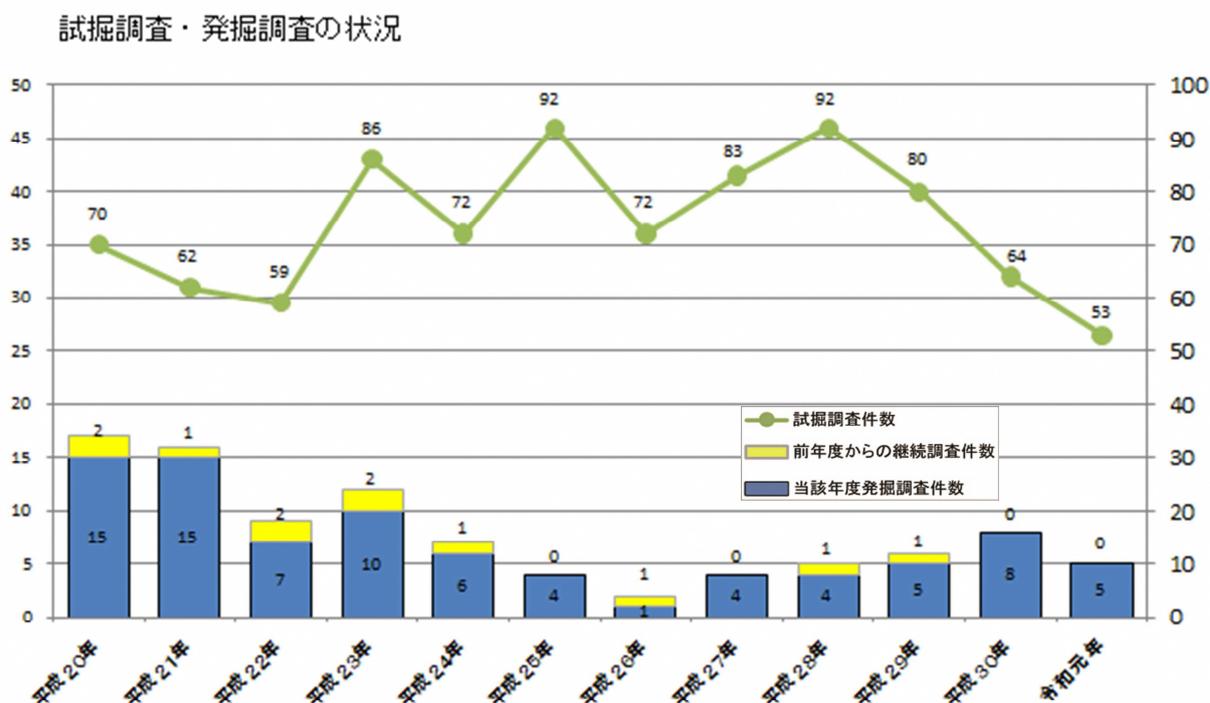
・川越市内では、現在345か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらは、国・県の指導のもと、詳細な分布調査を行い設定されたものである。こうした埋蔵文化財包蔵地の範囲内で開発行為を行う場合は、工事に先立って埋蔵文化財の存否を確認する試掘調査が必要である。試掘調査により、埋蔵文化財の存在が確認された場合、開発者との間で遺構の保存について協議し、どうしても破壊を免れないものについては、遺跡の姿を記録保存し後世に伝えるため発掘調査を実施する。

【令和元年度事業実績】

53件の試掘調査及び5件の発掘調査を実施した。以下にその成果の一部を紹介する。

- ・霞ヶ関遺跡（上戸新町）第25次調査では、奈良時代～平安時代の竪穴建物跡7軒と中世の溝跡8条を検出した。
- ・弁天南遺跡（仙波町3丁目）第16次調査では、平安時代の竪穴建物跡1基を検出した。
- ・寺尾貝塚（大字寺尾）第7次調査では、奈良時代の竪穴建物跡1軒と中世の溝跡1条を検出した。
- ・寺尾貝塚（大字寺尾）第8次調査では、中世の竪穴遺構1基を検出した。
- ・川越城跡（郭町2丁目）第38次調査では、中世～近世の堀跡4条、溝跡3条、弥生～古墳時代の建物跡3軒を検出した。

以上のように、令和元年度の調査では地域の歴史を物語る多くの遺構・遺物が出土している。



⑤関係団体との連携

【令和2年度事業予定】

- ・文化財保護の意識の高揚、伝統芸能の保存育成を目的とし、埼玉県文化財保護協会、川越市文化財保護協会、川越氷川祭の山車行事保存会、各民俗芸能保存団体等と連携して、各事業の実施や援助を行っている。

【令和元年度実績】

- ・川越市文化財保護協会実施事業の文化財講座（2回）、文化財見学会（2回）、市内文化財巡り、会報の発行等の事務援助を行った。
- ・鯨井の万作保存会、上戸芸能保存会と連携し、河越流鎗馬（11月16日実施 来場者3,800人）のなかで民俗芸能の披露を行った。

⑥山王塚古墳整備

【令和2年度事業予定】

- ・ 史跡の保存・活用について検討する。

【令和元年度事業実績】

- ・ 9月28日に現地説明会を実施し、124人の参加があった。

伝統的建造物群保存地区

川越市川越伝統的建造物群保存地区は、昭和50年の保存対策調査の後、長年にわたるまちづくりの取組みを経て、平成11年4月に都市計画決定を行い、同年12月に国から重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。地区の範囲は札の辻から仲町交差点までの南北約430m、東西約200m、面積約7.8haである。

地区内には、重要文化財大沢家住宅をはじめとする蔵造り商家や本市のシンボリック的存在である「時の鐘」のほか、近代洋風建築や看板建築など、江戸時代以降の各時代の特徴を表す様々な建築様式が伝えられている。これらは、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みを構成している。

なお、市民が主体的にまちづくりに取り組んでいることも高い評価を得ている。

令和元年度は、保存事業として、伝統的建造物の修理4件、応急修理4件、景観事業1件、合計9件の補助事業を行った。

令和元年度において、伝統的建造物の特定物件の合計は135件である。

令和元年12月1日に重要伝統的建造物群保存地区選定20周年を迎え、同日に記念行事としてシンポジウムを開催した。



川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

指定文化財一覧 (R2.4.1現在)

国指定文化財			県指定文化財			市指定文化財		
種別	件		種別	件		種別	件	
重要文化財	建造物	5	有形文化財	建造物	9	有形文化財	建造物	51
	絵画	2		絵画	2		絵画	1
	工芸品	3		彫刻	2		彫刻	12
	書籍・典籍・古文書	1		工芸品	5		工芸品	18
	無形民俗文化財	1		書籍・典籍・古文書	7		書籍・典籍・古文書	28
記念物	1	考古資料	1	考古資料	7			
指定文化財計	13	歴史資料	1	歴史資料	6			
		民俗文化財	1	民俗文化財	20			
重要伝統的建造物群保存地区	1	無形民俗文化財	6	民俗文化財	12			
重要美術品	2	記念物	史跡	3	記念物	史跡	32	
登録有形文化財	12		天然記念物	1		天然記念物	8	
登録記念物	1		旧跡	4				
計	29	計	42	計	195			
総計			総計			266件		

出版物

「川越建物細見」をはじめとしたパンフレット及び書籍・地図を発行し、市民の文化財保護に対する認識を高める手段として活用されている。なお書籍・地図については有償にて頒布しており、文化財保護課のほかに、市立博物館、川越まつり会館でも入手できる。

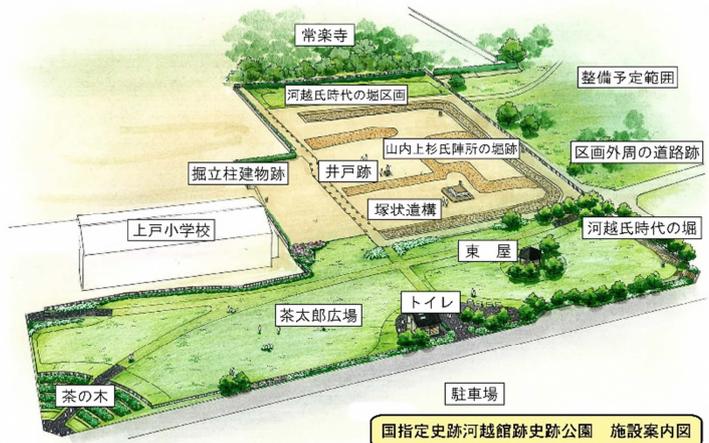
パン フレ ット	川越市の歴史年表
	川越建物細見
	国指定史跡河越館跡
	川越市指定文化財時の鐘
	川越の祭りと芸能
	国指定史跡河越館跡史跡公園
	川越城中ノ門堀跡
	市指定文化財旧山崎家別邸
	市指定史跡永島家住宅（旧武家屋敷）
	川越氷川祭の山車行事（日本語ほか9か国語）

書 籍 ・ 地 図	川越市の文化財
	ハンドブック 川越の歴史
	川越の伝説
	続川越の伝説
	川越の人物誌 第1集
	川越の人物誌 第2集
	川越の人物誌 第3集 女性編
	川越氷川祭りの山車行事調査報告書
	川越市文化財散策マップ
	川越の民俗調査報告書第1集 福原・南古谷地区の民俗
	川越の民俗調査報告書第2集 山田地区の民俗
	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
	元町二丁目井上家文書目録
	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具
川越の神社建築	
川越の寺院建築	
時の鐘耐震化工事報告書	

国指定史跡「河越館跡」

市内上戸・鯨井地区にある河越館跡は、鎌倉～南北朝時代に活躍した武蔵武士河越氏の館跡であり、昭和59年12月6日に国の指定史跡となっている。指定面積は、48,509.18㎡である。

川越市はこの館跡の整備を進めるにあたり、昭和61年度に「史跡河越館跡保存管理基本計画」を策定。続いて、平成12年度には「河越館跡整備基本計画」を策定した。現在は、これらの計画に基づき整備事業を行っている。整備に当たっては国・県の補助を受けつつ土地を公有化、遺構確認のため



の発掘調査を行い、その成果に基づき整備内容を検討、整備工事を実施している。発掘調査は、歴史研究者による調査指導委員会の指導・助言を受けながら現在までに16回実施した。具体的な整備内容の検討は、歴史・建築・造園などの専門家から成る整備検討委員会によって進められ、平成17年度に「河越館跡史跡整備基本設計」を策定。続いて、平成19年度には「河越館跡(第1期)史跡整備実施設計」を策定した。この実施設計に基づき平成19年度から平成21年度まで河越館跡(第1期)史跡整備工事を実施した。

約2年半の整備工事後、平成21年11月15日に「国指定史跡河越館跡史跡公園」を開園した。この公園は、次世代に伝えるべき貴重な史跡である河越館跡の保存を図るとともに郷土学習の場、市民

の憩いの場として有効な活用を目指すことを目的とする。全体が「史跡の広場」「茶太郎広場」の2つにゾーニングされ、「史跡の広場」では、河越氏時代の遺構を復元表示、「茶太郎広場」には、広々とした芝生の広場の一面に中世の銘茶「河越茶」に因んだお茶の木が植栽されている。

令和元年度は、整備検討委員会を開催し、今後の発掘調査について検討した。また、国の補助を受けて未買収地の買上げを行ったが、これによって寺社用地を除く、史跡用地の公有化が完了した。

活用事業としては、11月16日に河越流鏝馬実行委員会による「河越流鏝馬」を実施し、約3,800人の方に来場いただいたほか、そのプレ事業として名細市民センター等で河越館跡及び河越流鏝馬に関する展示を行い、あわせて小学校への出前授業も実施した。

令和2年度は、範囲確認調査を行い、第2期整備に向けて準備を進めるほか、活用事業を充実させ、広く河越館跡について理解や関心を得られるように努める。

市指定史跡「永島家住宅（旧武家屋敷）」

永島家住宅は、川越城南大手門近くの侍町であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた武家屋敷である。古文書や絵図資料から、その武家屋敷に住んでいた武士は、松平大和守家時代には250石から350石、最後の松平周防守家時代には110石の武士が住んでいた。また、特に御典医の居住が知られ、周防守家家臣の石原昌迪は、30人ほどからなる国元の藩医の筆頭の立場にあったことがわかっている。



平成18年3月に市指定文化財に指定され、平成24年3月より庭園の一般公開を行っている。

【令和元年度 見学者数】 毎週土曜日 9:00～16:00 公開

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学者数(人)	196	561	99	83	48	138	316	126	385	211	122	0	2,285

※5月3日（金）・5日（日）ゴールデンウィークに伴う特別公開、10月20日（日）川越まつりに伴う特別公開を含む。

10月12日（土）は台風のため、また、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため公開を中止した。